

# 平泉文化の総合的研究基本計画 (第3期)

令和2年5月

岩手県・岩手県教育委員会

## 目 次

|  |    |
|--|----|
| 1 平泉文化研究の経緯                            | 2  |
| (1) 研究基本資料の蓄積                          | 2  |
| (2) 平泉研究への関心の高揚                        | 2  |
| (3) 研究機関整備に向けた動き                       | 2  |
| 2 平泉文化研究の推進                            | 3  |
| (1) 第1期～第2期研究計画の概要                     | 3  |
| (2) 第1期研究計画（平成12（2000）年度～平成21（2009）年度） | 3  |
| (3) 第2期研究計画（平成22（2010）年度～令和元（2019）年度）  | 4  |
| 3 平泉文化の総合的研究基本計画（第3期）について              | 4  |
| (1) 期間の設定                              | 4  |
| (2) 研究テーマの設定                           | 5  |
| (3) 県等の予算事業名                           | 6  |
| (4) 研究テーマと共同研究主体                       | 6  |
| (5) 研究テーマごとの研究目的・目標及び研究の実施方法           | 6  |
| (6) 研究の実践（『平泉学』と「平泉の文化遺産」ガイダンス施設（仮称））  | 9  |
| (7) 成果の公開                              | 10 |
| 4 今後に向けて                               | 10 |

## 1 平泉文化研究の経緯

### (1) 研究基本資料の蓄積

平泉は12世紀末に奥州藤原氏が滅亡し、その後大規模な開発や災害を免れたため、いわゆる「平泉文化」を構成した文化財等は、現在でも良好に伝えられている。そのため、「平泉文化」を解明するための資料として、建造物、仏像を始めとする仏教美術資料、当時の記録類などの文献資料、陶磁器や建物遺構などの考古資料などがあり、現在に至るまで、多角的な観点から学術研究が進められてきた。

各種研究の中でも、『中尊寺と藤原四代 中尊寺学術調査報告』（1950）や『無量光院跡』（1954）、『国宝中尊寺金色堂保存修理工事報告書』（1968）、『奥州藤原史料』（1959）、『平泉 毛越寺と観自在王院の研究』（1961）などは、昭和年間を代表する基礎資料となっており、岩手県教育委員会においても『奥州平泉文書』（1958）の刊行や、柳之御所遺跡の発掘調査を継続して実施するなど、文化財の保護と学術情報の提供を行ってきたところである。

しかし、研究体制については、あるテーマのもとに臨時的に組織編成されるにとどまっていたため、この段階では研究の多くを研究者の個人的努力に依存していたともいえ、発掘調査がほぼ寺社境内に限られていた段階では、平泉文化研究の題材が、仏教美術や文献史料に偏る状況にあった。

### (2) 平泉研究への関心の高揚

昭和63（1988）年に始まった、北上川一関遊水地事業及び国道4号平泉バイパス建設事業に伴う柳之御所遺跡の緊急発掘調査は対象地が約5万㎡と、それまで平泉町内で行われてきた発掘調査と比較して格段に広い面積であったばかりでなく、得られた調査成果も従来の認識を大きく変えるものとなった。

この結果、「平泉文化」に対する考古学・歴史学界の認識が飛躍的に高まるとともに、中尊寺が行った柳之御所遺跡の保存に向けた署名が20万人分を超えるものとなり、平泉が多くの人々の関心を集めることとなった。この段階では、財団法人（現：公益財団法人）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会の平泉町文化財センター（現：平泉文化遺産センター）が、「平泉文化」の考古学的研究に非常に大きな役割を果たした。

しかし、両組織は、開発行為等でやむを得ず消滅する遺跡の記録保存を行う発掘調査が主体であったため、学術的な課題への対応という点では、調査体制や継続性が保証されているものではなかった。

### (3) 研究機関整備に向けた動き

岩手県教育委員会では、柳之御所遺跡をはじめとする平泉遺跡群が一級の学術資料を提供する素材であり、それらの発掘調査によって得られた成果を、組織的・体系的・継続的に県民等に還元していく必要性を強く認識することとなった。一方で、体系的に「平泉文化」を研究している機関は、国、県等を含めても存在しなかった。

このため、平成5（1993）年には「歴史的文化遺産の活用に関する懇談会」を開催し、学術機関の必要性について討論が行われた。さらに、平成6（1994）年に「考古

学研究機関の整備に係る調査研究協力者会議」を立ち上げ、考古学研究機関設置の検討に着手し、「平泉文化研究機関整備基本構想」を策定した。この構想では、先端的な研究を行っていくために、考古学的方法を軸として関連する諸科学が連携した学際的方法、及び「平泉文化」を単なる一地方史としてではなく、より広くアジア的な視点から国際的に捉えていく必要性について強調された。

## 2 平泉文化研究の推進

### (1) 第1期～第2期研究計画の概要

「平泉文化研究機関整備基本構想」を策定後、考古学研究機関設置に係る基本計画策定の準備を進めたものの、研究機関の設置に先行して、研究の核である発掘調査による基礎資料の蓄積や、平泉文化の研究者による全国的なネットワークの形成、若手研究者の人材育成などが急務とされた。

この課題を受けて、平成12(2000)年から10カ年計画による「平泉文化研究機関整備推進事業」に基づき、「12世紀東アジアにおける平泉文化の意義」を主要テーマに据えた研究計画(以下、「第1期研究計画」)を推進し、考古学を主とした平泉文化について、岩手県と外部研究者との共同研究を骨格として、その成果を「平泉文化フォーラム」及び「平泉文化研究年報」により公開することとした。

また、第1期研究計画の途上となる平成13(2001)年に、「平泉の文化遺産」がユネスコ世界遺産暫定リストに登録されたことから、当初設定したテーマは時宜を得たものとなった。

平成22(2010)年からは、第1期研究計画の成果と課題を踏まえた第2期10カ年計画として、「平泉文化の総合的研究基本計画」(以下、「第2期研究計画」)を策定し、引き続き研究を推進した。

平成23(2011)年6月には、「平泉 - 仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡 -」として、世界遺産委員会において世界文化遺産への登録が決議された。

しかし、柳之御所遺跡を始めいくつかの遺跡については、世界遺産としての価値証明に至っておらず、更なる研究が必要とされたことから、本研究計画の途中から「世界遺産平泉」に係る研究テーマを追加することとなった。

各期における主な研究テーマと研究内容は以下のとおりである。

### (2) 第1期研究計画：平成12(2000)年度～平成21(2009)年度

#### 平泉文化研究機関整備推進事業「12世紀東アジアにおける平泉文化の意義」

##### 【目標】

- ・ 平泉遺跡群の発掘調査成果の蓄積
- ・ 平泉研究者のネットワーク構築
- ・ 若手研究者の人材育成
- ・ 大テーマ：「12世紀東アジアにおける平泉文化の意義」
- ・ 小テーマ：3年ごとにサブテーマを設定、最終年度に総括シンポジウムを開催
  - ① 都市平泉の構造と平泉藤原氏の支配基盤
  - ② 世界遺産としての平泉文化

③ 国家と異民族の関係性

【経過】

- ・ H12 (2000) ～H14 (2002) 都市平泉の構造と平泉藤原氏の支配基盤
- ・ H15 (2003) ～H17 (2005) 世界遺産としての平泉文化
- ・ H18 (2006) ～H20 (2008) 国家と異民族の関係性
- ・ H21 (2009) 研究の総括

(3) 第2期研究計画：平成22(2010)年度～令和元(2019)年度

平泉文化研究機関整備推進事業「平泉文化の総合的研究基本計画」

【新たな枠組】

- ・ 県内5大学で構成される「いわて高等教育コンソーシアム」との連携研究  
(構成大学：岩手大学・岩手県立大学・岩手医科大学・盛岡大学・富士大学)
- ・ 岩手大学平泉文化研究センター研究サテライトを平泉遺跡群調査事務所に設置

【概要】

- ・ 大テーマ：「平泉文化の総合的研究基本計画」
- ・ 小テーマ：以下のとおり
  - ① 柳之御所遺跡の考古学的研究
  - ② 宗教・思想と国際性
  - ③ 都市と景観
  - ④ 文学と伝承
  - ⑤ 文献史料の基礎的考察
  - ⑥ 世界遺産に関する研究 (平成25(2013)年度から追加されたテーマ)  
※ ⑥のテーマについては、世界遺産登録推進事業「平泉の文化遺産拡張登録に係る5カ年研究計画」に基づき、当初の研究計画に追加して取り組むこととなったもの。

【世界遺産に係る研究】

- ・ 平成25(2013)年度～平成29(2017)年度  
世界遺産登録推進事業による「平泉の文化遺産拡張登録に係る5カ年の研究計画」が策定され、世界遺産に係る共同研究を実施。
- ・ 平成29(2017)年度～令和元(2019)年度  
上記事業による「柳之御所遺跡検討会(平泉の仏教的理想空間に係る国際研究会)」を開催。

### 3 平泉文化の総合的研究基本計画(第3期)について

(1) 期間の設定

令和2(2020)年度から令和6(2024)年度に実施する、「平泉文化の総合的研究基本計画」(第3期)(以下、「第3期研究計画」)は、従来の10カ年計画ではなく5カ年の計画で進めていくこととしたものである。

5カ年計画とした理由としては、これまでの研究計画が10カ年ごとに大小のテーマを設定し、長期的な視点に基づいて研究に取り組んできたものの、世界遺産登録に係

る情勢の変化が著しいことから、計画の柔軟性と機動性を重視したことによるものである。また、平泉の世界遺産の拡張登録を見据え、より短期的な研究成果が求められていることも理由として挙げられる。

## (2) 研究テーマの設定

第3期研究計画のテーマ設定にあたっては、第2期研究計画までの成果と課題を踏まえ、大きく5つのテーマを設定することとした。第2期研究計画で設定した6つのテーマのうち、「③都市と景観」、「④文学と伝承」は一定の研究成果を上げた一方、他の4つのテーマについては、研究の進展により新たな課題が提起された部分もあることから、引き続き発展的な要素も含めた研究テーマとして実施していくこととしたものである。

以下の表は、第2期研究計画のテーマと成果・課題、及びそれを受けての第3期研究計画の個別テーマをまとめたものである。

○ 第2期研究計画と第3期研究計画のテーマ整理表

| 第2期研究計画のテーマ (H22～R1:10カ年) |   |                                 | 第3期研究計画のテーマ (R2～R6:5カ年)   |
|---------------------------|---|---------------------------------|---------------------------|
| 研究テーマ                     | 成果  | 課題                              |                           |
| ① 柳之御所遺跡の考古学的研究           | ○ 堀内部地区の内容が解明された                            | ● <u>堀外部地区の解明が必要</u>            | ① 柳之御所遺跡の考古学的研究           |
| ② 宗教・思想と国際性               | ○ 中国の都市との比較検討により、平泉の固有性が確認された               | ● <u>平泉と彼岸・此岸との関係を深める研究が必要</u>  | ② 平泉の彼岸と此岸の造形に係る比較研究      |
| ③ 都市と景観                   | ○ 独特の都市的領域として確認された<br>○ 浄土思想を反映した景観形成が確認された | ○ <u>一定の成果が得られたことから終了</u>       | /                         |
| ④ 文学と伝承                   | ○ 奥州の歌枕・西行の文学的研究が進んだ                        |                                 |                           |
| ⑤ 文献資料の基礎的考察              | ○ 柳之御所出土文字資料の一部が解読された                       | ● <u>未解読の文字資料の解読、内容検討が必要</u>    | ③ 出土文字資料の集成的研究            |
| ⑥ 世界遺産に関する研究              | ○ 平泉と北アジアの拠点が検討された                          | ● <u>仏教遺産、都市造営の比較検討が必要</u>      | ④ 東・北アジアにおける政治拠点と平泉の比較研究  |
|                           |   | ● <u>新たに世界遺産に係る保存管理の人材育成が必要</u> | ⑤ 学校教育における世界遺産の教材化についての研究 |

第3期研究計画の研究テーマについては、今後更なる成果が見込まれるこれまでの研究テーマを継続するほか、第5回「平泉の文化遺産」拡張登録に係る研究集会「世界のなかの平泉」(平成29(2017)年8月)において、「アジアの都市史上における世界遺産としての価値証明を確実にするための比較研究が必要である」と指摘されたことや、世界遺産に係る保存管理の人材育成、世界遺産教育に係る新たな教材の開発が必要であるとの認識から、5つのテーマを設定することとした。

(3) 県等の予算事業名

- ・ 平泉文化研究機関整備推進事業
- ・ 世界遺産登録推進事業  
(以上、岩手県)
- ・ 「世界遺産平泉」保存活用推進事業  
(以上、「世界遺産平泉」保存活用推進実行委員会)

(4) 研究テーマと共同研究者

- ・ (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター → 研究テーマNo.①
- ・ 国等の研究機関(東京文化財研究所・奈良文化財研究所等) → 研究テーマNo.②・③
- ・ 岩手大学(平泉文化研究センター) → 研究テーマNo.④・⑤

| No. | 第3期研究計画のテーマ                         | 共同研究者                                  |
|-----|-------------------------------------|--|
| ①   | 柳之御所遺跡の考古学的研究<br>(堀内部地区と堀外部地区との関係性) | 発掘調査に係る(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターとの考古学的研究 |
| ②   | 平泉の彼岸と此岸の造形に係る比較研究                  | 国等の研究機関等との共同研究<br>(世界遺産登録推進事業との連携)     |
| ③   | 出土文字資料の集成的研究                        |  |
| ④   | 東・北アジアにおける政治拠点と平泉の比較研究              | 岩手大学との共同研究                             |
| ⑤   | 学校教育における世界遺産の教材化についての研究             |  |

(5) 研究テーマごとの研究目的・目標及び研究の実施方法

テーマ①:「柳之御所遺跡の考古学的研究」(堀内部地区と堀外部地区との関係性)

【研究目的・目標】

- ・ 未調査が多い堀外部地区の様相を把握し、今後の整備の材料として蓄積
- ・ 堀外部地区の検討を行い、堀内部地区や他の遺跡との比較検討を実施
- ・ 道路跡、区画の検討を実施(遺構の変遷、様相等の検討)

【研究の実施方法】

- ・ 平泉遺跡群調査整備指導委員会の指導に基づく調査を実施
- ・ 「平泉の文化遺産」ガイダンス施設(仮称)(以下、「ガイダンス施設」)を研究施設として活用

テーマ②:「平泉の彼岸と此岸の造形に係る比較研究」

【研究目的・目標】

- ・ 12世紀平泉の実態の解明
- ・ 「平泉」及び東、北アジアの彼岸・此岸の観点に基づく政治拠点との比較研究
- ・ 「平泉」の顕著な普遍的価値(OUV)の検証

**【研究の実施方法】**

- ・ 国の外部研究機関研究者による、現地滞在も含めた共同研究の実施
- ・ 国の研究機関等との学術的な連携
- ・ ガイダンス施設を研究施設として活用

**テーマ③：「出土文字資料の集成的研究」****【研究目的・目標】**

- ・ 柳之御所遺跡の出土文字資料の整理・読解・内容検討
- ・ 12世紀の国内出土事例を収集し、平泉の政治・文化・宗教の諸相を復元

**【研究の実施方法】**

- ・ 国等の外部研究機関研究者による、現地滞在も含めた共同研究の実施
- ・ 先端的科学機器を用いた文字資料の解読
- ・ 国の研究機関等との学術的な連携
- ・ ガイダンス施設を研究施設として活用

**テーマ④：「東・北アジアにおける政治拠点と平泉との比較研究」****【研究目的・目標】**

- ・ 東・北アジアにおける前近代の政治都市（拠点）の成立過程を検討し、12世紀における「平泉」との比較研究
- ・ 政治と行政拠点としての「平泉」が、東・北アジアにおいて独特の位置にあることを追究

**【研究の実施方法】**

- ・ 東・北アジアにおける前近代政治都市（拠点）の成立過程を調査
- ・ 日本列島の近世以前における政治都市（拠点）の成立過程を調査
- ・ 政治拠点「平泉」の成立過程の調査
- ・ 「平泉」と他の政治都市（拠点）の比較に係るシンポジウムを開催

**テーマ⑤：「学校教育における世界遺産の教材化についての研究」****【研究目的・目標】**

- ・ 世界遺産教育の具体的な実践事例の収集
- ・ 「平泉」における、よりよい世界遺産教育のあり方の検討と成果の実現（新規デジタル教材等の開発）
- ・ 世界遺産の保存管理に係る理解の深化、保存管理に係る若い世代の人材育成

**【研究の実施方法】**

- ・ 全国各地における世界遺産教育の実態調査
- ・ 岩手県内における「平泉」教育の実態調査
- ・ 世界遺産教育に係る課題の抽出、及び教育課程と世界遺産教育の関係整理
- ・ 「平泉」教育に係るワークショップの実施と関係教材（デジタル教材）の開発

○ 第3期研究計画の年次計画表

研究テーマ① 柳之御所遺跡の考古学的研究（堀内部地区と堀外部地区の関係性について）

|           | 研究内容  | R 2  | R 3  | R 4                                      | R 5   | R 6  |
|-----------|---|--|--|--|---|--|
| 研究目的/目標   | ・未調査範囲の多い堀外部地区の様相を把握し、整備検討の材料として蓄積<br>・堀外部地区の検討を行い、堀内部地区や他の遺跡との比較検討を実施<br>・道路跡、区画の比較検討を実施（遺構の変遷、様相等の検討） | 第1次調査（H30から着手中）<br>・道路跡の検討<br>・他遺跡、過去の調査との比較検討 | 第2次調査（3カ年）<br>・道路跡、区画の検討<br>・他遺跡、過去の調査との比較検討 | 第2次調査（3カ年）<br>・区画の検討<br>・他遺跡、過去の調査との比較検討 | 第2次調査（3カ年）<br>・区画の検討（2次調査の検証）<br>・他遺跡、過去の調査との比較検討 | 総括年度<br>・第1次、2次調査の総括<br>・他遺跡、過去の調査との比較検討           |
| 研究実施方法/計画 | ・平泉遺跡群調査整備指導委員会による指導に基づく調査の実施<br>・ガイダンス施設を研究施設として活用   | ・発掘調査<br>・指導委員会<br>・大学等研究機関との連携                | ・発掘調査<br>・指導委員会<br>・大学等研究機関との連携              | ・発掘調査<br>・指導委員会<br>・大学等研究機関との連携          | ・発掘調査<br>・指導委員会<br>・大学等研究機関との連携                   | ・補足調査<br>・指導委員会<br>・大学等研究機関との連携<br>・調査成果の総括（報告書作成） |

研究テーマ② 平泉の彼岸と此岸の造形に係る比較研究

|           | 研究内容  | R 2  | R 3                                      | R 4                                      | R 5                                      | R 6                                   |
|-----------|---|--|--|--|--|---------------------------------------|
| 研究目的/目標   | ・「平泉」及び東・北アジアの彼岸・此岸の観点に基づく政治拠点との比較研究<br>・「平泉」における彼岸・此岸の反映が詳細に検証されることによる、12世紀「平泉」の実態を解明<br>・「平泉」の顕著な普遍的価値（OUV）の検証      | ・「平泉」における彼岸・此岸の観点に基づく比較研究<br>・日本における彼岸・此岸の観点に基づく比較研究 | ・日本における彼岸・此岸の観点に基づく政治拠点との比較研究            | ・東アジアにおける彼岸・此岸の観点に基づく政治拠点との比較研究          | ・北アジアにおける彼岸・此岸の観点に基づく政治拠点との比較研究          | ・日本及び東・北アジアの彼岸・此岸の観点に基づく政治拠点との比較研究を総括 |
| 研究実施方法/計画 | ・国等の外部研究機関研究者による、現地滞りも含めた共同研究の実施<br>・平泉と日本及び北・東アジアにおける彼岸・此岸の観点に基づく政治拠点の比較研究<br>・国等の研究機関との学術的な連携<br>・ガイダンス施設を研究施設として活用 | ・文献調査<br>・現地調査<br>・検討会の開催                            | ・文献調査<br>・現地調査<br>・検討会の開催<br>・ガイダンス施設の活用 | ・文献調査<br>・現地調査<br>・検討会の開催<br>・ガイダンス施設の活用 | ・文献調査<br>・現地調査<br>・検討会の開催<br>・ガイダンス施設の活用 | ・研究成果の総括的なまとめ<br>・総括シンポジウムの開催         |

研究テーマ③ 出土文字資料の集成的研究

|           | 研究内容   | R 2                               | R 3  | R 4  | R 5  | R 6                           |
|-----------|--|-----------------------------------|--|--|--|-------------------------------|
| 研究目的/目標   | ・柳之御所出土遺物の文字資料について、未解読の文字資料の整理・読解・内容検討を実施<br>・12世紀における国内の出土事例を収集し、「平泉」における政治・文化・宗教の諸相を復元     | ・出土資料と文字の検証                       | ・出土資料と文字の検証  | ・出土資料と文字の検証  | ・出土資料と文字の検証  | ・文字資料と12世紀における「平泉」の諸相を検証し総括   |
| 研究実施方法/計画 | ・国等の研究機関研究者による、現地による共同研究の実施<br>・先端的科学機器を用いた文字資料の解読<br>・国等の研究機関との学術的な連携<br>・ガイダンス施設を研究施設として活用 | ・文字資料検討会の開催<br>・資料の収集<br>・分析機器の活用 | ・国内出土事例の調査<br>・文字資料検討会の開催<br>・資料の収集<br>・分析機器の活用<br>・ガイダンス施設の活用 | ・国内出土事例の調査<br>・文字資料検討会の開催<br>・資料の収集<br>・分析機器の活用<br>・ガイダンス施設の活用 | ・国内出土事例の調査<br>・文字資料検討会の開催<br>・資料の収集<br>・分析機器の活用<br>・ガイダンス施設の活用 | ・研究成果の総括的なまとめ<br>・総括シンポジウムの開催 |

研究テーマ④ 東・北アジアにおける政治拠点と平泉との比較研究

|           | 研究内容  | R 2                         | R 3                                     | R 4  | R 5  | R 6  |
|-----------|---|-----------------------------|---|--|--|--|
| 研究目的/目標   | ・世界遺産としての「平泉」の新たな学術意義を確認するため、東・北アジアにおける前近代の政治都市（拠点）の成立過程を比較検討<br>・政治・行政拠点としての平泉が、東・北アジアにおいて独特の位置にあることを明確化                                   | 日本列島の近世以前の政治都市の成立過程の研究段階を整理 | 東アジア（中国）における前近代の政治都市の成立過程について、宗教的観点から整理 | 東アジア（中国、朝鮮半島）における前近代の政治都市の成立過程について、宗教的観点から整理 | 北アジア（中国東北部ほか）における前近代の政治都市の成立過程について、宗教的観点から整理 | ・平泉の成立過程を整理<br>・日本及び東・北アジア諸都市との比較研究<br>・平泉が独特の政治・行政拠点であることを明確化 |
| 研究実施方法/計画 | ・東・北アジアにおける前近代政治都市（拠点）の成立過程の調査（特に宗教との関係）<br>・日本列島の近世以前における政治都市（拠点）の成立過程の調査（特に宗教との関係）<br>・政治拠点「平泉」の成立過程の調査<br>・東・北アジア都市と「平泉」との比較に係るシンポジウムの実施 | ・文献調査<br>・現地調査、現地研究者との意見交換  | ・文献調査<br>・現地調査、現地研究者との意見交換              | ・文献調査<br>・現地調査、現地研究者との意見交換                   | ・文献調査<br>・現地調査、現地研究者との意見交換                   | ・研究者によるワークショップ<br>・総括シンポジウムの開催（国際シンポを予定）                       |

研究テーマ⑤ 学校教育における世界遺産の教材化についての研究

|           | 研究内容  | R 2  | R 3  | R 4  | R 5                                      | R 6                                     |
|-----------|---|--|--|--|--|---|
| 研究目的/目標   | ・世界遺産教育の具体的な実践事例の収集<br>・世界遺産「平泉」におけるよりよい世界遺産教育のあり方の検討と成果の実現（新たなデジタル教材の開発）<br>・世界遺産の保存管理に係る理解の深化と保存管理を担う若い世代の人材育成    | 岩手県内における世界遺産「平泉」教育の実態を明確化  | 東日本における世界遺産教育の実態を明確化                           | 西日本における世界遺産教育の実態を明確化                           | 「平泉」教育に係る課題の整理と教材を試作し、効果を検証              | 世界遺産「平泉」教育の在り方を総括                       |
| 研究実施方法/計画 | ・全国各地における世界遺産教育の実態調査<br>・岩手県内における「平泉」教育の実態調査<br>・世界遺産教育に係る課題の抽出、及び教育課程と世界遺産教育の関係整理<br>・「平泉」教育に係るワークショップの実施と、関係教材の開発 | ・県内各校へのアンケート及び聞き取り調査<br>・児童・生徒の理解度調査<br>・平泉に係る教材調査<br>・世界遺産が所在する市町村教委への聞き取り調査（学校訪問を含む） | ・世界遺産が所在する市町村教委への聞き取り調査（学校訪問を含む）<br>・平泉に係る教材調査 | ・世界遺産が所在する市町村教委への聞き取り調査（学校訪問を含む）<br>・平泉に係る教材調査 | ・「平泉」教育の課題に係るワークショップの開催<br>・デジタル教材の試作、完成 | ・「平泉」教育の課題に係るワークショップの開催<br>・デジタル教材による実践 |

## (6) 研究の実践（『平泉学』とガイダンス施設）

第3期研究計画については、令和3（2021）年度内に開設が予定されているガイダンス施設において、\*『平泉学』（＝「平泉文化」に係る総合的な学術研究領域）を実践の柱として研究計画を進めていくものである。

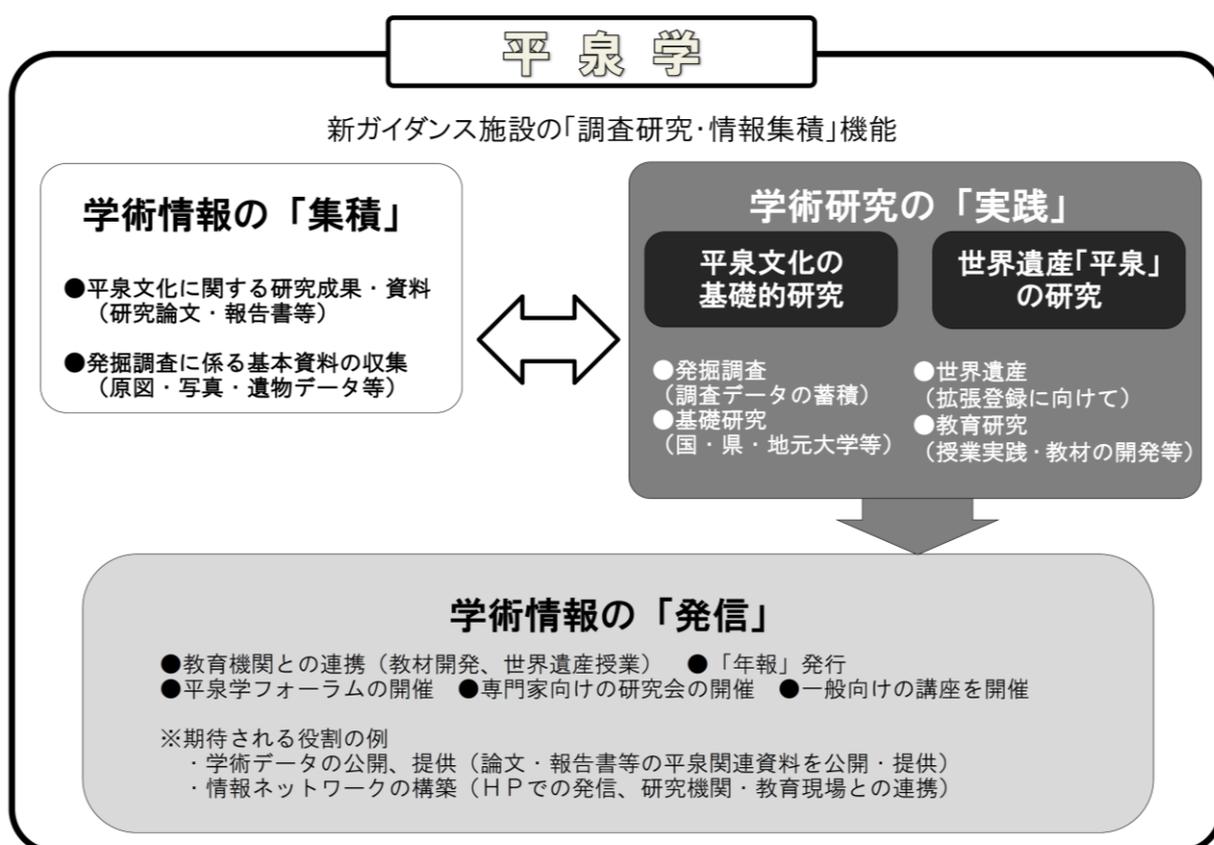
ガイダンス施設の基本計画の中において、「平泉文化の多角的な調査・研究と研究者の交流の拠点として、学術情報が集積し活用される施設」と示されており、施設を研究の拠点として位置づけるとともに、学術研究を更に推進させていくこととしている。

また、国等の研究機関の研究者との共同研究を実施する理由として、将来的に国立博物館の誘致を目指しているところであり、その足掛かりとして平泉に国等の研究者に滞在していただきながら研究に取り組むことなどを想定している。

### \*『平泉学』

「平泉の文化遺産」をはじめとする情報発信力を強化するため、「平泉学」を軸とした学術研究に基づく情報発信等を充実します。（「いわて県民計画（2019～2028）」より）

### ○ 『平泉学』研究フレームのイメージ



#### (7) 成果の公開

研究の成果については、毎年度「平泉学研究会」、「平泉学フォーラム」、「平泉学研究年報」により公開・刊行する。主な実施内容は以下のとおりである。

##### ① 「平泉学研究会」

研究者を対象とし専門性を高めた内容とする。研究計画の進捗により得られた成果の経過報告と、新たに生じた課題等に対して研究討議を行う。

##### ② 「平泉学フォーラム」

平成12（2000）年度から開催されてきた「平泉文化フォーラム」を発展的に再編して実施する。一般県民向けを対象とするもので、より理解しやすい内容として開催する。

##### ③ 「平泉学研究年報」

平成12（2000）年度から刊行を重ねてきた『平泉文化研究年報』を発展させる。

#### 4 今後に向けて

第3期研究計画の策定にあたっては、世界遺産の拡張登録を見据えた内容を研究テーマとして重点化し、ガイダンス施設を『平泉学』の研究拠点とすることによって、岩手県及び岩手県教育委員会が合同で実施することとしたものである。

設定した研究計画及び研究テーマについては、令和2（2020）年度から令和6（2024）年度までの5カ年による見通しを立ててはいるものの、研究の進展や情勢の変化等によっては、研究テーマの内容を一部見直す必要性が生じることも考えられる。

今後、他の研究機関等との連携による研究計画を進めながら、多くの研究者が平泉に集い、研究活動がより一層活性化して得られた成果によって、国際的な情報発信を行っていききたい。